

## 医学系研究科（博士課程）

### 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

#### 教育方針

医科学および生命科学領域において、高度な知識および科学的・論理的思考に基づき、独創性・創造性に優れた研究を遂行し、国際的にも活躍できる自立した研究者、各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を備え、高い倫理観と研究マインドを持った臨床医および地域に貢献できる臨床研究や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・ER救急医・家庭医を養成することを目的としている。これらの目的を達成するため、「統合先進医学専攻」のもと、基礎医学領域を中心とする医科学コース、臨床医学領域を中心に各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を修得する先端応用医学コースと地域医療における臨床研究や教育的指導ができる医療技能を修得する地域総合医療学コースを設け、大学院担当教員による複数教員指導体制により体系的に教育・研究指導を行う。

#### 1. 教育課程の編成

教育方針を具現化するため、以下の教育課程を編成する。

- ① 4年以上在学し、共通科目（医科学基礎総論・実験基礎演習・医科学特論・先端応用医学概論）18単位及び選択科目（コース・領域専門科目等）12単位以上の計30単位以上を修得させる。
- ② 医科学コースでは、基礎医学領域を中心とした分子生命医科学、高次生命医科学、生体情報医科学、感染防御医科学、機能画像医学のコース科目、先端応用医学コースでは臨床医学領域を中心に3部門（腫瘍医学、器官再生医学、病態情報解析医学）6分野（生殖・周産期・腫瘍医学、腫瘍制御医学、重粒子線治療医学、成長発達病態学、器官病態解析・制御医学、病態情報・画像医学）のコース科目、地域総合医療学コースでは、総合診療部・救急部・地域医療推進講座等を中心とした総合診療医学・ER救急医学・家庭医療学のコース科目を、講義および演習により2－3年次に開講し、各コースに所属する大学院生に、関連する分野における高度な知識および技術を幅広く修得させる。
- ③ 医科学コースでは基礎医学を中心とした各専門領域、先端応用医学コースでは臨床領域を中心とした各専門領域、地域総合医療学コースでは、地域医療に関連した臨床領域を中心とした各専門領域での専門科目（演習および実習）を3－4年次に開講し、専門分野における最先端の知識および技術を修得させる。

#### 2. 教育課程の実施体制

教育方針を具現化するため、以下の体制で教育課程を実施する。

- ① 大学院生ごとに指導教員および副指導教員を置くことで複数指導教員制とする。
- ② 共通科目および部門科目においては、各授業科目に教科主任となるコーディネーターを置き、授業内容に応じて複数の担当教員により実施される授業の一貫性を担保し、授業科目を統括する。

- ③ 3年次修了前後に、大学院生による公開の研究発表会を義務付け、研究の進捗状況等を発表し、参加教員からの意見やアドバイスを受けて、最終年度での研究の取りまとめに資する。
- ④ 本学の医学部医学科4－6年次生を対象に、博士課程授業科目を早期履修できる「博士課程授業科目早期履修制度」を導入し、卒後臨床研修終了後に入学するよりも早い博士号取得を可能とする。
- ⑤ 本院の初期臨床研修医（医学部医学科卒業予定者を含む。）を対象に、本院初期研修と博士号取得を効率よく両立できる「初期研修同時履修制度」を導入し、卒後臨床研修終了後に入学するよりも早い博士号取得を可能とする。
- ⑥ 社会人大学院生に対して教育方法の特例を適用した柔軟な授業形態による履修指導を行うとともに、学外非常勤講師による大学院セミナー等を活用し、もって教育目標を達成するための教育指導の工夫を行う。

### **学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

各専攻の目的に照らして、大学院生が修得すべき学習成果の達成を学位授与の方針とする。具体的には、

- ① 4年以上在学し、共通科目18単位、選択科目（コース・領域専門科目等）12単位以上を修得し、国際的に活躍できる研究能力や、先端的で高度専門的な臨床研究を遂行できる高度医療に関する能力、もしくは地域に貢献できる質の高い総合医療に関する能力が十分培われていること。
- ② 査読のある、国際的に評価の定まっている欧文の学術誌もしくはそれと同等の学術的価値を有する学術誌に筆頭著者として原著論文を公表し、研究の着想、計画、実施、論文執筆等における自発性が十分に発揮されたかを判断する、学位審査に合格すること。
- ③ ただし、評価の高い国際的学術誌に論文発表し、上述の研究能力や高度医療に関する能力が十分に確立されていることが確認された場合は、3年次修了以降、学位審査により早期に学位授与することができること。